

子どもと共なる日々



西 淑

原稿の依頼を受け、子ども達との日々を振り返ってみる、良い機会を与えていただきました。

子どもは、長女十歳、次女七歳、長男五歳、次男三歳の四人がおります。主人の転勤に伴なって、転居四回、又その間に、次々と出産、この十年間、本当に忙しい毎日でありました。この様な状況ですが、私なりに、考えてきたり、感じてきたことなど、少し述べさせていただきます。

○

子どもが生まれると、喜びと同時に、どの様に育児をしていったらよいか、常に、心から離れません。第一に、健康に育ってほしいと願います。その為には、何といても、戸外で遊ばせることが一番ではないでしょうか。家事は、最小限度にし、戸外で遊ばせようと思いましたが、でも、実際は、朝食の片付けや、掃除、洗濯など途中にして、子どもと遊ぶことは、なかなか勇気のいることでした。

朝のうちに、これこの仕事を済ませてと、親の側の予定を立てると、子どもから何か話しかけられても、要求してきても、時間ばかり気になり、ゆっくりと相手に

なつてあげられなくなります。そればかりか、つい、ぐず／＼言わないように、「……をして遊んでなさい」と一方的な指示に、変ってしまいました。この事は、かえつて、ぐず／＼言い出すことになり、たとえ、やっと戸外へ出ても、スムーズに遊びに入っていけないようでした。そんな経験を何度かくり返し、出来る限り、子ども達のペースに合わせようと決心しました。

次に、どの様に育てていけばよいか、と言う問題ですが、この事は、広い意味で、良い子に育ててほしいと言う、願いにもなります。『良い子』というのは、一体、どの様な状態の子どもを指して言っているのか、定義つけるのはとても難かしいのですが……例えば、明るい子、素直な子、たくましい子、礼義正しい子、やさしさのある子、その他いろいろ、こうなつてほしいと願うすべてが含まれているように思われます。では、実際どうしたら、親が願うような子どもに育てられるのでしょうか？ いろいろと考えてみました。

一つには、基本的な生活習慣を、きちんと身につけさ

す。この事は、親の側にとつて、しつけをする、と言うことではないでしょうか。この点に関して、我が家では、兄弟が多いので、子ども同士でできたえ合うことが多いいようです。手伝っていただけの人ありませんので、どうしても、早くから自分のことは、自分でしなくてはなりません。又、よその御家庭よりも、いろいろな約束ごとが多くなり、子ども達の間でも、約束を破るとみんなからいろいろ言われますので、守ろうといたします。私も、公平になるよう、あまり例外を認めないように心がけております。

最近の事で、例をあげてみますと、小学校の夏休みの宿題に『家族の一員として何か仕事をする』ということが出され、夕食後、姉達二人の仕事は何にするか話し合っていますと、弟達もすると言ひ出し、長女は、庭の草花に水をあげる、次女は玄関の掃除、長男は、自分のふとんをたたむ、次男はテレビを消す、はしを並べるに、相談がまとまりました。

夏休みかからと思つておりました処、翌日から、姉達二人は決めたのか、始め、それを見た長男もあわてて、弟のふとんまでたたみました。こうして三日目の朝、長女

がまだ眠たいのか「夏休みの目標だから、夏休みからしましよよ」と言い出しましたが、妹の方は「絶対に続けるわよ」と、さっさと仕事をしましよ。姉もしかたなく始め、こうして、くじけそうになっても、誰かががんばる、すると、負けまいと発奮するようです。この様に、子ども達同士で、きたえ合っていくことが多く、親が何回もはげましの言葉を掛けて、仕事を続けさせていくより、どれ程か素晴らしいと、うれしく見守っております。

もう一つは、こうなるとはしいと願う気持ちを、親自身が態度で示していくことではないでしょうか。「明るい子ども」と願うなら、自分自身が明るい気持ちで、毎日が過ごせるように心がけていくのが、良いのではないかと思います。両親が精一杯働き、何事に対しても努力する、その姿が子どもを良くしていくことに、つながっているのではないのでしょうか。子ども達は、本当によく親を観察し、いろいろと感じとっているように思われます。

例えば、お菓子の一つ残った時にも必ずみんなに分けるようにしていますと、誰か友達の家でお菓子を戴いて持ち帰って来ましたが、決して一人で食べてしまわず、自分から四人に分けてあげます。又、私の留守の間に、下の子が昼寝をしようとして、日頃見ていたのでしょいか、ちゃんとふとんをかけてあげるなど、おもいやりが育っています。子どもを良く育てるには、まず親自身が良くなるかと努力するのが、とてもよい方法のように思われます。

次に、学校や地域社会とのつながりの中で、子ども達のことを考えてみたいと思います。現在は、幼い子どものいる家庭では、核家族が多くなっています。特に、最初の子どもの時には、病気の場合、すぐ不安になったり、又、育児の方法や、いろいろな問題が起きた時、気軽に相談できる人がいたらと思います。こんな事を考えますと、自分の住んでいる地域の中で、子どもを持つ親のグループ活動ができれば、どんなに心強いことでしょうか。そうすれば、子ども達も一緒に遊ぶことも

でき、親達も相談し合ったり、他のお子さんの活動も観察でき、あらためて、広い視野に立って、我が子を見守ることもできるのではないでしょうか。

又、入園と同時に、親から離れて過ごす時間ができ、いろいろな人と友達になり、遠くの友達の家まで遊びに行くなど、行動半径も広まってきました。そうした際にも、親同士が親しくなっていますと、どれほどか安心して、子どもの行動を見守ることができのではないのでしょうか。

例えば、友達の家でいただくおやつの時、きちんとあいさつが言えるように、遊んだ後はみんなで片付けましょうと声をかけてあげる、帰宅の時間もちゃんと守るように見届けるなど、親から離れた実際の場面で、話しかけていただけたら、どんなにか良いしつけができるでしょう。又、「お宅のお子さんはこんなですよ」と素直に、感じたことを聞かせてもらい、お互いの子どもについて話し合いがもてたら、より深く子どもを理解することとなるでしょう。

今まで述べてまいりましたことは、『子どもを育てる』ということは、

一、自分自身が、一日／＼を大切に、充実させて生活していくこと

二、自分の子どもだけを育てるのではなく、囲りに集まる子ども達も含めて、育てる心を持つ

以上、この二点が、子どもと共に過ごしてわかりました。



これから先、どんどん成長していく子ども達と共に、今まで以上のいろいろな複雑な問題と直面して行くことでしょう。でも、どんな荒波が押しよせて来ても、乗り切っていけるよう共に、努力していきたいと願っております。